

●第 18 回環境生理学プレコンgress開催報告

長崎大学大学院加齢口腔生理学分野 中村 渉
長崎大学大学院神経機能学分野 中畑 泰和

第 101 回日本生理学会大会に先立ち、2024 年 3 月 27 日（水）に TKP 小倉駅前カンファレンスセンターで、第 18 回環境生理学プレコンgressおよび久野寧記念賞受賞講演会が開催されました。環境生理学プレコンgressは、生体への環境要因の影響について議論し、若手研究者に発表の機会を提供することを目的として、本大会前日に開催されてきました。この分野の理念は 2007 年に出版された『環境生理学』（北海道大学出版）にまとめられています。この本では、医学・生理学の立場から地球規模の環境問題を克服する方法について先見性を持って論じられています。序文では、地球環境の維持を志向した概念として「Sustainability」が紹介され、地球環境・都市環境・社会環境が定義されています。さらに、環境に適応する生体機能の恒常性維持機構とその破綻、そのための

進化についてまとめられ、各論では各々の環境因子に対する生体応答が詳細に議論されるとともに、社会的環境としてライフスタイル・コミュニティー・ジェンダーから超高齢社会まで幅広く扱われています。第 18 回集会では、国内外から 15 演題の発表があり、口演後は活発な討論が行われました。第 28 回久野寧記念賞（環境生理学 GD 賞）は、九州大学の池上啓介博士が受賞し、演題「ノルアドレナリンによる眼球マクロファージの食作用抑制が夜間眼圧上昇させる分子制御機構の解明」の受賞講演が行われ、今後の発展性について活発に議論されました。最後には、グループ集会として、プレコンgressの「Sustainability」について確認し、次回世話人の大石勝隆先生（産総研）から第 102 回大会前日の 2025 年 3 月 16 日（日）開催（予定）が周知され、閉会となりました。



【集会 Web site】 <https://sites.google.com/view/18th-kankyo-seirigaku>